修正前

基本構想修正案について

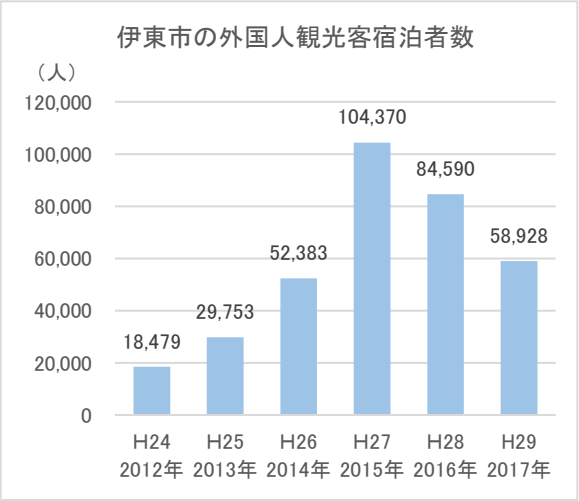
第５次 伊東市総合計画基本構想（案）11 ページ　　第１章 第５節 まちづくりの課題（７）

今後は、必要な都市基盤整備や、その長寿命化施策とともに、適切な維持管理を進めつつ、都市機能や生活機能を集約したコンパクトでかつ魅力的な市街地を形成することが求められます。また、地域特性を踏まえた地域拠点の形成を図り、既存集落地のコミュニティと良好な住環境を維持していくことが求められます。

さらに、公共交通の利便性の向上を推進し、拠点と拠点をつなぐネットワークの形成を図り、誰一人取り残されない快適で活力あるまちづくりを進める必要があります。

（７）観光を軸とした活力ある産業を創造するまちづくりが求められます

本市は、古くから伊東八景を始めとする景勝地や、北里柴三郎、東郷平八郎等の著名人から愛された温泉保養地を軸として、観光が基幹産業でありました。また、徳川家康の外交顧問の英国人ウィリアム・アダムスが日本初の洋式帆船を松川河口で建造した歴史から、国際交流の礎が築かれてきました。



資料：第三次伊東市観光基本計画

しかしながら、現在は、観光ニーズの多様化、情報収集手段の変化等により、国内外の観光地間競争が激化しており、本市固有のブランド価値を確立していくことが求められています。

また、本市では平成 24 年（2012 年）に 18,479 人であった外国人宿泊者数が３年後の平成 27 年（2015 年）に 104,370 人と５倍以上に増加し、ピークを迎え、その後は減少していますが、近年は国際化の進展により全国的に外国人観光客が増加する傾向にあり、新たな時代に対応した観光振興方策の展開が求められます。

商業、工業は、年間商品販売額や製造品出荷額が減少傾向にあり、停滞感があることから、産業振興方策を展開するとともに、雇用の場を確保することが求められます。また、基幹産業である観光を基軸として、各産業の連携による相乗効果の発揮を図ることも重要です。

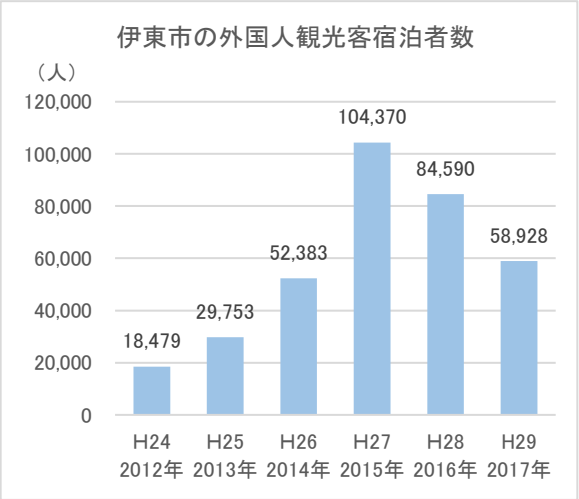
農業においては、総農家数は少ないものの、近年は経営耕地面積が増加しており、総農家数も維持されていますが、人口減少・少子高齢化が進行しているなか、地産地消や６次産業化、観光産業との連携などに取り組み、担い手の育成や確保を図ることが必要です。

今後は、必要な都市基盤整備や、その長寿命化施策とともに、適切な維持管理を進めつつ、都市機能や生活機能を集約したコンパクトでかつ魅力的な市街地を形成することが求められます。また、地域特性を踏まえた地域拠点の形成を図り、既存集落地のコミュニティと良好な住環境を維持していくことが求められます。

さらに、公共交通の利便性の向上を推進し、拠点と拠点をつなぐネットワークの形成を図り、誰一人取り残されない快適で活力あるまちづくりを進める必要があります。

（７）観光を軸とした活力ある産業を創造するまちづくりが求められます

本市は、古くから伊東八景を始めとする景勝地や、北里柴三郎、東郷平八郎等の著名人から愛された温泉保養地を軸として、観光が基幹産業でありました。また、徳川家康の外交顧問の英国人ウィリアム・アダムスが日本初の洋式帆船を松川河口で建造した歴史から、国際交流の礎が築かれてきました。



資料：第三次伊東市観光基本計画

しかしながら、現在は、観光ニーズの多様化、情報収集手段の変化等により、国内外の観光地間競争が激化しており、本市固有のブランド価値を確立していくことが求められています。

また、本市では平成 24 年（2012 年）に 18,479 人であった外国人宿泊者数が３年後の平成 27 年（2015 年）に 104,370 人と５倍以上に増加し、ピークを迎え、その後は減少していますが、近年は国際化の進展により全国的に外国人観光客が増加する傾向にありました。しかしながら、令和２年（2020 年）の COVID-19 の世界的流行による観光への影響は大きく、インバウンドを含め、先行きが見えない状況となり、新たな時代に対応した観光振興方策の展開が求められます。

商業、工業は、年間商品販売額や製造品出荷額が減少傾向にあり、停滞感があることから、産業振興方策を展開するとともに、雇用の場を確保することが求められます。また、基幹産業である観光を基軸として、各産業の連携による相乗効果の発揮を図ることも重要です。

農業においては、総農家数は少ないものの、近年は経営耕地面積が増加しており、総農家数も維持されていますが、人口減少・少子高齢化が進行しているなか、地産地消や６次産業化、観光産業との連携などに取り組み、担い手の育成や確保を図ることが必要です。